



舞鶴市立明倫小学校

平成30年4月27日



自分で体験することを大切に

明倫緑地はツツジがきれいに咲き、私たちの心をなごませてくれます。タケノコやワラビなど季節を感じる食べ物も、あちこちで口にすることができる頃となりました。舞鶴にはたくさん自然があり、近くで多くの花や生き物を見ながら、自然の移ろいを感じることもできます。

先日新聞を読んでいると「幼児期に暗記学習や訓練をさせることは子どもにとってたいへんな弊害です。」という発達心理学者の言葉が目にとまりました。この先生はあまりに早くから暗記型や訓練型の学習をさせていると「子どもを指示待ちにさせる。」「子どもが勉強への興味を失う。」「問題解決力が身につかない。」と指摘されていました。幼児期にはやはり多くの体験をし、実物に触れながら多くのことを体感することが大切だとおっしゃっています。最近ネットでは「脳科学」という言葉を入れ早期からの能力開発の重要性を訴える内容が多くあるようですが、その言葉に惑わされないようにと警鐘をならされています。

確かに自然の中で多くのことを体験している子どもは、自分で考えつくり出すことを得意としているような気がします。ゲーム機やVTRなど仮想の空間で体験するのではなく、実際に自分で見て体験することが大切なのです。暗記や訓練はもちろん大切ですが幼児期の早い時期には、身体を使って感じる体験や経験を多くさせるほうが良いということなのです。

舞鶴には幸い多くの自然があり、様々な体験をすることができます。子どもの時にしかできない体験をして、後々の学習に生かしてほしいと思います。



校長 池田 弘一

歴史と伝統

9月には「全国藩校サミット舞鶴大会」が開催され、明倫小学校の児童も参加します。7月には「東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー」が明倫小学校を会場に行われる予定です。藩校としての明倫齋・明倫館に始まった明倫小学校だからこそ参加できる「藩校サミット」。元オリンピック選手の齋藤里香さんが委員を務めるフラッグツアー。齋藤さんの母校だからこそできる取組です。歴史に残る取組に参加できることはとても貴重な体験になることでしょう。